

理科の観察で四万十川へ

ぼくたちは、理科「流れる水のはたらき」の学習で、四万十川に観察に行きました。まず、「かわらっこ」で観察しました。30センチメートルをこえる大きな石でいっぱいでした。川原には大きな木も流れていて、大雨や台風の際に流れる水のはたらきで流されたんだと思いました。こんな大きな石や木が流されるなんて、すごいなと思いました。

次に、「高瀬ちん下橋」に行きました。お兄ちゃんは、夏にこの橋の上から飛び込むので、すごいと思います。水面からかなりの高さがあるので、大雨や台風の際の水の量は、とても多いんだなと思いました。



四万十川にて

最後に「赤鉄橋」の下の川原に行きました。川の石は、かわらっここと比べると丸くて小さいです。かわらっこと同じ色の石があったので、上流から流れてくる間に丸く小さくなったんだと思います。四万十川が大きい川だから下流の石も大きいんだと思いました。赤鉄橋を下から見ると、とても高くて大きかったです。

(三浦小学校 5年 浜口 章一)

はっぴょう朝会でけん玉

1・2年生のはっぴょう朝会では、1年生が「のりものずかん」について、2年生は、「紙コップけん玉の作り方」について、そして、1・2年生みんなで、「けん玉せんしゅけんわぎ」についてしゃべりました。

けん玉は、本ものよりも自分たちで作った紙コップの方がかるくて、かんたんです。みんな木の本物のけん玉でも、次々に技をおぼえてクリアしています。朝会でしようかいして、全校にけん玉をはやめたいと思っています。上きゅう生は、やっぱり上手です。

けん玉を上手にするコツは、ひざをつかって玉をふわつとのせることです。それから、何といても、くじけず何回もれんしゅうすることです。むずかしいけれど、せいこうした時は、「やったー。」と、とびはねるくらいうれしいです。

（拳ノ川小学校 2年 森 稟花、坂本 唯羽、大砂 銀慈 1年 今西 遥斗）



けん玉作りの発表の様子



紙コップけん玉を作る児童

産業祭に参加しました!

11月12日(日)、土佐西南大規模公園で、第55回大方の秋祭り、第五回黒潮町まるごと産業祭が開催されました。



かつおタタキバーガーの販売

このお祭りと同時開催で「海辺の日曜日」も行われ、他にも作品の展示や出店、舞台芸能、餅投げなど、楽しいイベントが盛り沢山でした。

私たち大方高校も出店し、定時制はうちわや繭で作られたマグネット、全日制はかつおたたきバーガーを販売し、「地域学」を学ぶ一年生と生徒会全員で協力し、目標の三百個を売り上げることができました。



キャラクターのかつぱあも応援

お客さんの呼び込みなど、出店することの販売することの大変さも理解でき、高校生活の良い思い出になりました。

(大方高校 3年 松尾 愛花)